

元年六月家祿七十石加恩ありて百七十石賜はり、改作奉行に轉じ、寶曆三年六十一歳にて歿す。齋藩七世大應公・八世謙徳公兩代の侍讀を勤め、元文元年八月延享二年七月兩度建言して政務の可非を議せり。中にも延享の建言に付き藩公より親簡を賜はり、其の志を褒賞せらる。

伊藤津兵衛迄指越候一封、令披見候、誠に三州之政要不
過之憂、悦入候也。

七月廿九日

判

大地新八郎殿

○尻垂坂

此の坂は、小立野より新堂形前へ通行する道路にて、坂名を汁谷、或は修理谷・尻谷など書けり。元祿六年士帳に尻谷と見え、享保九年士帳には大修理谷とあり。此の坂路の傍より小將町へ下る坂路をば、小尻谷と呼べり。故に大尻谷とも呼べり。童謡にも大尻谷や小尻谷といへり。松雲公年譜にしりたれ坂とあり。按ずるに、昔小立野山林なりし頃、此の坂路里人の樵道なりし頃の遺名ならんか。或は云ふ。此の坂従前は坂路より水しみ出で、夏季といへども乾

かず。ゆゑに汁垂坂と呼べりと。昔はしりたれ坂と呼びたるを、今はしりたにといふともいへり。和訓栞に、谷をたにと訓めるは垂の義、山のなだりをいふ也とあり。龜尾記に、一説に云ふ。何の修理とか云ふ人此の地邊に居住す。故に修理谷ともいふといへり。平次按ずるに、此の一説は修理谷と書ける文字に據つての附會なるべし。此の坂文政前迄甚だ道路悪しき嶮坂なりしかど、竹澤殿建築に付き、文政三年八月廣坂より尻谷往來の通路を止められ、此の時坂路を取廣められ、今の如く成り、同年九月より庶人通行始るとぞ。

○小尻谷坂

或は小汁谷、また小尻垂坂など書けり。大尻谷に對したる名目にて、元祿六年士帳に、尻谷・小尻谷と並べ載せられたれば、元祿前よりの名稱なること知られけり。此の坂は尻谷通りより小將町へ下る一條の坂名なりしかど、廢藩後その並びにまた一條の坂路を付け、今は二條の坂路ありて、共に名を小尻谷とは呼べり。按ずるに、延寶の金澤圖に、大尻谷と呼べる坂路の傍なる坂路をば、新坂と書き載せた

り。此の坂路の下は今云ふ小將町なるよしなれば、新坂は即ち今いふ小尻谷の坂にて、延寶の頃に新たに付けられしゆゑに、新坂とは呼びたるなるべし。然るに此の坂、尻谷坂の傍にて小坂なりし故に、小尻谷とは呼びそめたるものならんか。

○小尻谷町

此の町は、小尻谷坂の近邊に小家あるを呼べり。此の町名、元祿以來の地子町裁許附等にも記載せず。廢藩後此の地邊武士地を賣却して、小家共を建てたり。其の後此の町名を稱しそめたるものなり。

○柵門跡

舊藩中は尻谷坂の下より城中石川門口への往來に、柵御門と稱し、柵門ありて足輕番所を置けり。廢藩の時諸門と共に廢止せらる。按ずるに、此の門は改作所舊記に載せたる延寶元年十二月の書付に、土清水御藥藏御園よりやらい御門迄道程一里と見え、十二冊定書割場部城外掃除町場付に、新坂柵御門とありて、本名は新坂柵門といへり。延寶の金澤圖を考ふるに、今云ふ小尻谷坂をば新坂と載せたり。

此の坂の邊なる門なりし故に、新坂の名を負へるなるべし。

○山本瀨兵衛蕃邸

延寶の金澤圖に次に描ける如く載せたり。山本基庸の微妙公夜話録に云ふ。山本瀨兵衛屋敷拜領願書指上げゝる處、屋敷歩數は身上當り程有之哉と御尋也。不足は仕候へども御城をも廻り候様被仰付候故、遠方は迷惑仕候間、御城近を願候よし申上候へば、小身者は青菜一本も植申處無之而は不成もの也。城のはづれ可有之、宮内見計とらせ可申由御意にて、御城代小幡宮内被出見分有之、此通可被下と細引被相渡たり。只今私まで住居の屋敷地にて、如此細成事までも御心付被遊たりと。亡父瀨兵衛御申。とあり。右居邸の地景、延寶金澤圖に記載有之。地境の趣を以て利常卿の思食の程遠察すべし。

○山本久助傳

山本氏系譜に云ふ。本國近江・本苗三段崎氏也。始祖三段崎遠江守高景、足利尊氏將軍之時世。奉仕于足利家。二世三段崎睦景。三世三段崎景通、稱彈正忠。四世三段崎景俊。五世